

第2次富里市協働のまちづくり推進計画の取組についての総括意見

令和4年6月24日
富里市協働のまちづくり推進委員会

令和3年度の推進計画の進捗状況を踏まえ、今後の取組について、富里市協働のまちづくり推進委員会としての総括的な意見等については、以下のとおりです。

【総括】

委員会としての主な活動内容は、市民活動支援補助金の交付及び市民活動感謝状贈呈に係る市長からの諮問に、市民目線に立って審議を行い、答申しました。

補助金の申請では、団体の専門性の高い取組と次世代につなげることに重きを置いた活動計画について、委員からも高い評価がありました。特に市のシンボルとして長い間親しまれたスイカのガスタンクの解体撤去工事の様子を記録した活動は、撮影の技術力の高さを含め、マスメディアでも大きな話題となりました。

また、感謝状の贈呈は、事業者への推薦が多数に及び、まさに協働のまちづくりへの理解と協力をいただいている状況を、市民に報告できる良い結果となりました。

一方、市民活動の醸成とサステナブル（SDGs）を柱とした「第2次富里市協働のまちづくり推進計画」の実施に、スムーズに移行できる体制づくりについて検討をしました。

以前からの継続課題であるボランティア手帳の活用と普及については、広報やホームページでの周知に加え、事業者の協力を仰ぐなど、解決策の糸口が得られました。

また、市民活動サポートセンターが開設5周年を迎え、アンケート調査を実施したところ、登録団体から高い支持と評価を得られたことは大きな成果と捉えています。

今後も市民活動推進課、市民活動サポートセンター及び本委員会が連携して、安心して住み続けられるまちづくりの一助にしっかりと取り組んでいきます。

最後に、市職員の市政にかける熱い想いと強い使命感、そして日々努力と強い結束が富里市のまちづくりの成果になっています。これからも市民と一体となって、住み続けることができる富里のまちづくりに期待しています。

【第1節 活動の醸成支援】

各種の取組については、それに携わる多くの市民のボランティア精神に感動し、その温かみを感じました。

一方、活動の本質が分かりづらくなっている面も感じたので、見直すことも必要ではないかと考えています。

市民活動サポートセンターの機能の強化

サポートセンターの機能と市民活動推進課の機能を活かした体制で、意欲的な取組や事業が実施され、その成果が少しずつ表れています。

市民活動支援補助金の充実

申請件数は少なかったが、次世代へつながる素晴らしい事業計画が提出されました。

市民が市民活動を支える仕組みづくり

ちい寄附については、多くの事業者の理解と協力が得られ、地域のために市民が気軽にまちづくりに参加できる仕組みとして、今後も期待しています。

市民活動感謝状贈呈

事業者への推薦が多く、その取組が“協働のまちづくり”の一つとして、市民に周知できる機会と思います。

とみさと協働塾の開催

まちづくりサポーターの育成は、市民活動の裾野を広げる醸成という観点からも、継続して実施されることを期待しています。

時代のニーズを的確に捉えて、講座内容を色々と工夫されている事は高く評価できますが、参加者が少ないのが課題と捉えます。

また、まちづくりサポーターの活躍の場が十分とは言えない現状を鑑み、具体的な活躍の場を提供して、受講者の励みと講座の活性化を図っていただきたいと思います。

ボランティア手帳の効果的な活用

事業者の協力を得て、今後も市民活動やボランティア活動の拡大に期待しています。

若者プロジェクトチームの検討・創設

このプロジェクトがスタートしたことは、SDGsの醸成という観点からも大きな成果と考えています。

今後も数年計画を立て、市民活動推進課を中心に結果・効果が見出せるように、このプロジェクトを進めていくことを期待しています。

多文化共生による市民活動の促進

本市における課題の一つであるので、丁寧且つ継続的に取り組んでいただきたいと思います。

外国人住民への情報提供を出発点として展開し、情報提供のステップにあたる取組として、既存の市民活動団体に対して、外国人住民の参加に関する理解を広めることや、外国人住民の支援や外国人との交流、多文化理解にかかわる市民活動を増やすことも必要と考えます。

事業者による地域活動の促進

まちづくりの担い手として、事業者の理解と協力は非常に大切であることを、事業者だけに限らず、市民にも周知していただきたいと思います。

市民活動総合補償制度の運用

市民活動団体への説明会の実施は、運用への理解が一層深まっていくものと考え、今後も継続されることを期待しています。

地域づくり協議会事業補助金の充実

この補助金制度については、地域づくり協議会の活動の在り方や充実、多様な取組につながると考えます。

地域づくり協議会等の地域課題を共有

各地域づくり協議会から出される地域課題の把握と、解決に向けた様々な取組方法の検討へと進んでいくことを期待しています。

地域づくり協議会等への人的支援

職員を派遣して地域と共に地域課題や情報を共有することは、市政の充実につながると考えます。今後、各地域づくり協議会からの求めに応じて、地域課題の解決のために、積極的に職員の派遣や有識者につないでいただきたいと思います。

【第2節 情報の提供・共有】

インターネットツールの積極的な活用と膨大な情報量に対応する一つとして、目次などを作成し整理するなど、より分かりやすいものになるように考えていきます。

活動事例の紹介

市民活動への理解と協力の裾野を広げるため、紹介や発信の仕方を工夫する必要があると考えます。

事業者の地域活動の紹介

商店等の事業者が行う地域活動に対して、市民の関心が高まりつつあるので、事業者の取組に対する情報収集にも努めていただきたいと思います。

市民活動団体などによる講座の実施

市民活動の活性化に大きな効果が期待される講座だと思えます。

協働専用情報発信ツールの運用

情報発信に創意工夫を重ね、発信の適切な時期等の検討を今後も進めていただきたいと思います。

また、SNSなど情報発信ツールの充実と、出前セミナーなど市民活動団体のニーズに合わせた形での実施も検討をお願いします。

市広報紙及び市ホームページの充実

住み良いまちづくりのための広報やホームページの在り方について、工夫がなされていると思えます。

富里市民活動フェスタの開催

市民が、実際に活動している団体の人によって、直に話を聞くことも大切であると考え、継続して開催していただきたいと思います。

異分野、異世代の交流

これまでの退職者層が中心の活動から、更に若い世代の活動まで幅広く拡大していくことが求められています。

とみさとの情報コーナーの多様化

図書館に情報コーナーを設置したことで、利用者へのアプローチの機会となったと思います。

また、市民が市民活動の情報に触れる機会を増やすために、市内の店舗などにニューズレターの配架や「ちい寄附」の寄附箱の設置依頼をするなど、情報発信の多様化に引き続き務めていただきたいと思います。

中間支援組織などとの連携

現行の構成団体の主な専門性を考え、人材募集やグループづくりを継続していくための中間支援機能をもつ組織や担当者と交流する機会を設けたことは良い取組だと考えます。

今後も意見交換、事業連携など継続していただきたいと思います。

市民活動の実態及び意向調査

市民活動を対象とする調査に加え、市の関係部署や関係団体への調査を実施し、市民参加や市民活動団体との協働の在り方の資料として活用を考えていただきたいと思います。

【第3節 市の推進体制】

市民が協働する市の部署をイメージしやすくし、各部署が協働についての理解や協力を一層図っていくための方策を検討していただきたいと思います。

協働のまちづくりを推進する課の充実

職員が創意と工夫をもって意欲的にチャレンジし、レベルアップし、今後も市内連携や横のつながりを持てるよう、しっかりと進めていただきたいと思います。

地域課題を整理する円卓会議の検討・実施

地域課題を整理し、問題点の洗い出しを進めるために、市内で活動する全ての市民活動団体等の代表者で構成する円卓会議の開催を検討していただきたいと思います。

職員研修の実施

市職員の皆さんの日々の努力に感謝しています。

今後も市民と一体となったまちづくりを意識して、邁進していただきたいと思います。